

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 観光は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は極めて厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

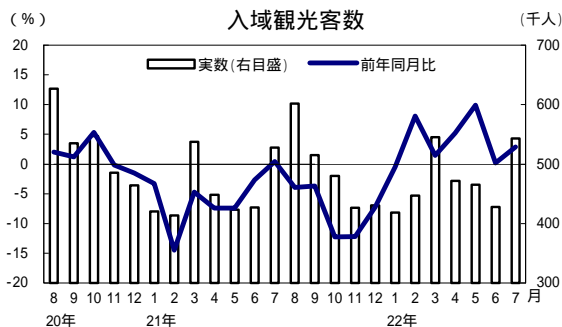
	前回(平成22年5月)	今回(平成22年8月)	
景況判断	下げ止まっている	持ち直しの動きがみられる	
観光	下げ止まっている	緩やかに持ち直している	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動きがみられる	

1. 観光及び企業動向

(1) 観光は緩やかに持ち直している。

入域観光客数のうち、国内客については、5月はゴールデンウィークが好調だったことや、前年新型インフルエンザの影響を受けた関西方面からの送客数が大きく伸びたため、前年を上回った。6月は路線数が減少した関西方面や名古屋からの送客は減少したものの、前年減少幅が大きかった東京からの送客数が増加したため、全体としては前年並みとなった。7月は県内初開催のインターハイによる団体需要により、前年を上回った。外国客については、クルーズ船の寄港回数が前年よりも少なかった6月を除き、香港からの定期便増便などにより、前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテル共にほぼ前年並みとなっている。



入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

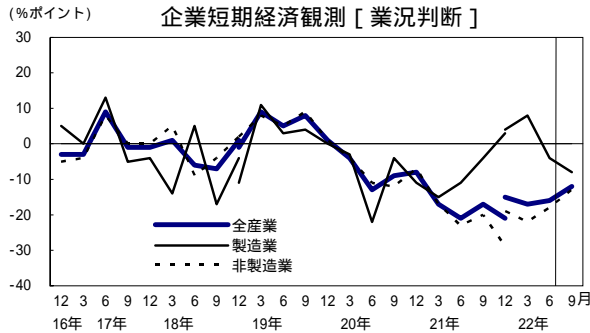
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月
入域観光客数	1,645	1,336	1,410	1,365
(前年比)	2.5	10.7	2.9	5.1
ホテル稼働率	75.0	61.2	71.1	65.8
(前年差)	6.2	10.5	1.0	0.2

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光商工部調べ。

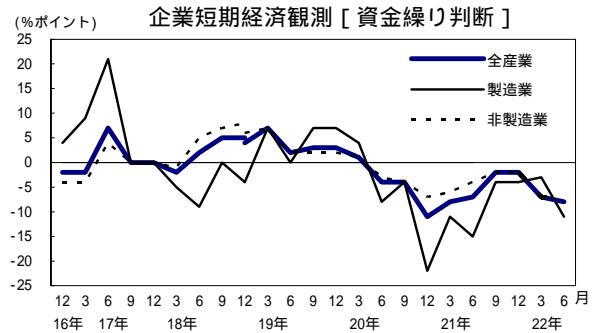
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。調査対象は43ホテル。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

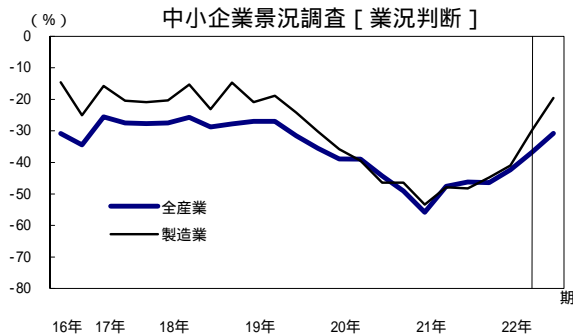
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のD.I。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

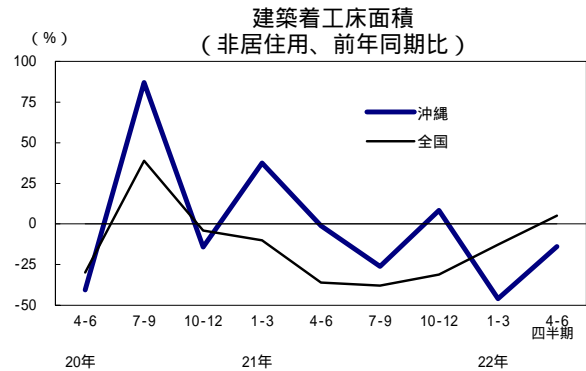
「食品や雑貨などの小売業では、業界全体の低価格志向が定着しており、客単価の上昇は難しい(会計事務所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績見込み	22年度計画
全産業	20.4(10.0)	19.1(0.3)
製造業	45.6(5.9)	10.1(0.2)
非製造業	16.4(11.9)	20.0(0.4)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。石油・電力を除く。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

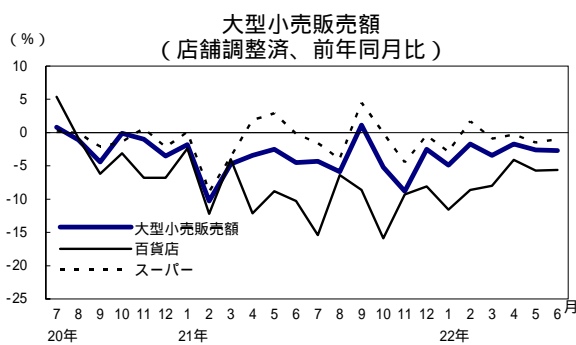
百貨店販売額、スーパー売上高

百貨店は、4月は消費者の買い控え傾向は続いているものの、催事効果などから前年比減少幅が縮小した。5月は主力の衣料品や食料品等の不振などにより前年比減少幅が拡大した。6月は食料品を中心に多くの品目で前年を下回ったものの、衣料品が改善したことなどにより前年比の減少幅は縮小した。

スーパーは、主力の食料品を中心とした1点単価の下落などにより、前年同期比の減少幅が拡大した。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「競合他社も厳しいと推測され、チラシに載せる特売価格を一段と安くしている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

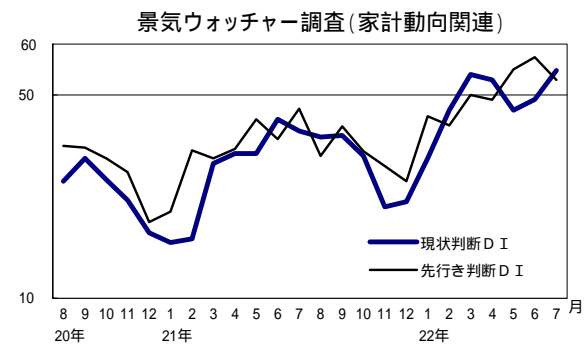
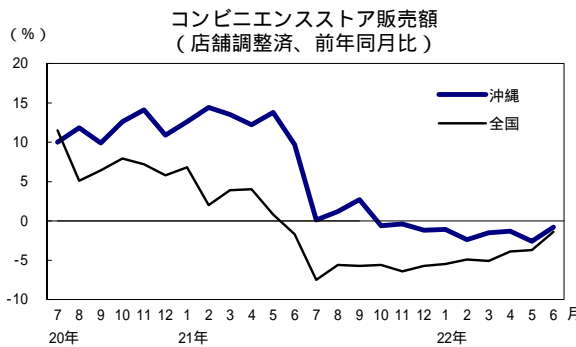


	(前年同期比、%)			
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月
大型小売店	3.2	5.3	3.4	2.4
百貨店	10.3	10.8	9.5	5.2
スーパー	0.6	1.6	0.9	1.0
乗用車	1.5	12.5	24.3	35.7
景気ウォッチャー	42.2	31.7	46.2	49.7

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。百貨店、スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ(いずれも既存店)

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

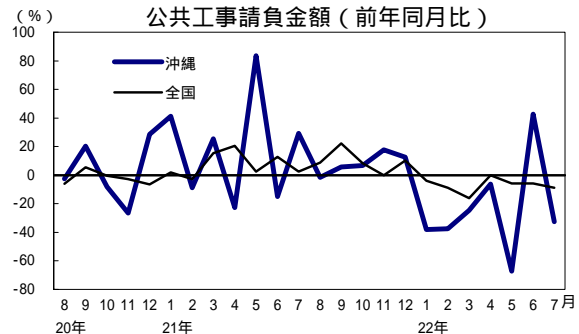
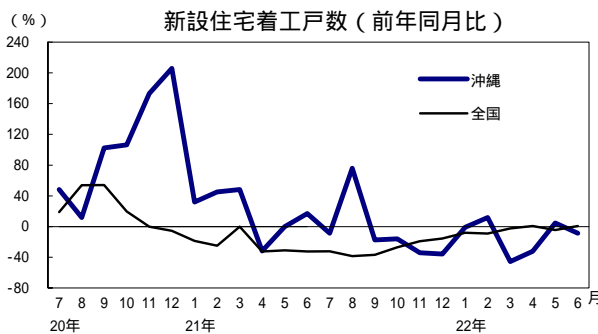
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

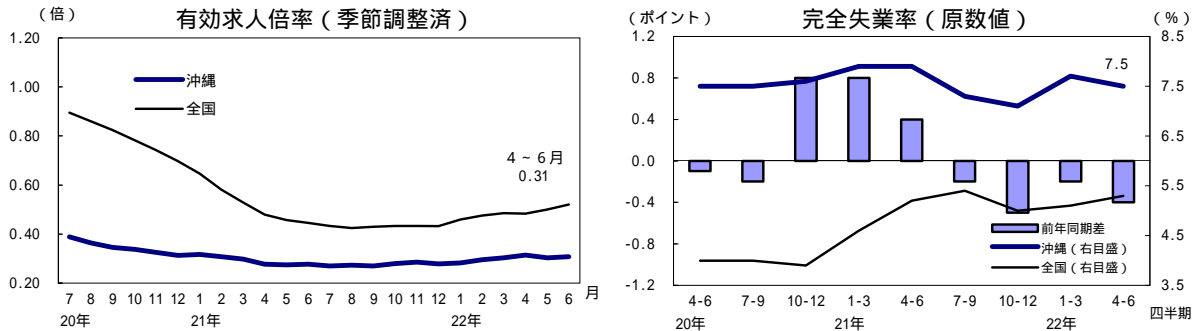


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は極めて厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査 (5月) [雇用関連 (現状)]

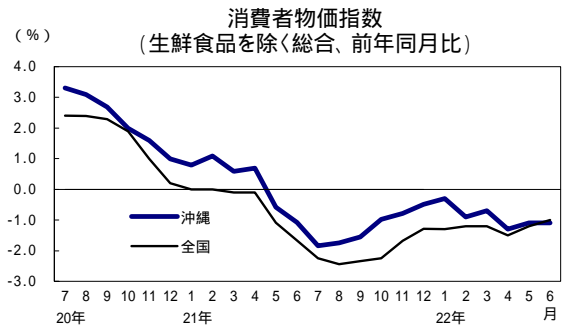
「売上金額と求人広告件数は、多少ながらも前年を上回っている。新規の求人企業や求人広告会社全体の景気も上向きとの情報もある (求人情報誌制作会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数が大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件, 億円, %)				
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月	22年7月
倒産件数	16	13	10	12	4
(前年比)	54.3	38.1	58.3	45.5	20.0
負債総額	43	45	21	13	5
(前年比)	93.0	83.7	77.7	80.8	4.4



景気ウォッチャー調査 (6月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・3か月前と比べると、稼働率の前年比が若干良くなってきている。しかしながら、今月も前年を大きく下回る実績になるとみられ、依然として厳しい (観光型ホテル)

<先行き>

・モデルハウス及び完成見学会への来場組数が横ばい状態である。リフォームの問い合わせ件数が減少している (建設業)

